

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成29年2月9日(2017.2.9)

【公開番号】特開2015-168615(P2015-168615A)

【公開日】平成27年9月28日(2015.9.28)

【年通号数】公開・登録公報2015-060

【出願番号】特願2014-41972(P2014-41972)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/49 (2006.01)

A 6 1 K 8/23 (2006.01)

A 6 1 K 8/67 (2006.01)

A 6 1 K 8/97 (2017.01)

A 6 1 Q 15/00 (2006.01)

A 6 1 Q 19/10 (2006.01)

A 6 1 Q 5/02 (2006.01)

C 1 1 D 3/28 (2006.01)

C 1 1 D 3/48 (2006.01)

C 1 1 D 3/04 (2006.01)

C 1 1 D 3/20 (2006.01)

C 1 1 D 3/382 (2006.01)

C 1 1 D 1/10 (2006.01)

C 1 1 D 1/28 (2006.01)

C 1 1 D 1/90 (2006.01)

C 1 1 D 1/52 (2006.01)

C 1 1 D 1/72 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/49

A 6 1 K 8/23

A 6 1 K 8/67

A 6 1 K 8/97

A 6 1 Q 15/00

A 6 1 Q 19/10

A 6 1 Q 5/02

C 1 1 D 3/28

C 1 1 D 3/48

C 1 1 D 3/04

C 1 1 D 3/20

C 1 1 D 3/382

C 1 1 D 1/10

C 1 1 D 1/28

C 1 1 D 1/90

C 1 1 D 1/52

C 1 1 D 1/72

【手続補正書】

【提出日】平成28年12月27日(2016.12.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(A) ミコナゾールおよび / またはその塩、

(B) ピロ亜硫酸ナトリウム、トコフェロール、天然ビタミン E、緑茶乾留エキスおよび茶エキスからなる群より選ばれる少なくとも 1 種の抗酸化剤、ならびに

(C) 界面活性剤

を含有する、医薬品、医薬部外品または化粧品用の洗浄用組成物。

【請求項 2】

前記 (C) 界面活性剤が、アニオン界面活性剤、両性界面活性剤およびノニオン界面活性剤からなる群より選ばれる少なくとも 1 種である、請求項 1 に記載の洗浄用組成物。

【請求項 3】

前記 (C) 界面活性剤が、

N - アシルグルタミン酸塩、N - アシルメチルアラニン塩、N - アシルメチルタウリン塩、N - アシルサルコシン塩、N - アシルアスパラギン酸塩、アミノ酢酸ベタイン型両性界面活性剤、イミダゾリン型両性界面活性剤、脂肪酸アルカノールアミド、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、およびポリオキシエチレン硬化ヒマシ油からなる群より選ばれる少なくとも 1 種である、請求項 1 または 2 に記載の洗浄用組成物。

【請求項 4】

前記 (B) 抗酸化剤を 2 種以上含む、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の洗浄用組成物。

【請求項 5】

前記 (B) 抗酸化剤が緑茶乾留エキスを含む、請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の洗浄用組成物。

【請求項 6】

前記組成物全量に対し、

(A) ミコナゾールおよび / またはその塩を 0 . 1 ~ 2 . 0 質量 %、

(B) 抗酸化剤を 0 . 0 0 1 ~ 5 . 0 質量 %、ならびに

(C) 界面活性剤を 5 . 0 ~ 5 0 質量 %

含有する、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の洗浄用組成物。

【請求項 7】

更に、炭素数 3 ~ 8 の少なくとも一つのアルカンジオールを 0 . 1 ~ 1 5 質量 % 含有する、請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の洗浄用組成物。

【請求項 8】

前記炭素数 3 ~ 8 の少なくとも一つのアルカンジオールが 1 , 3 - ブタンジオールまたは 1 , 2 - プロパンジオールである、請求項 7 に記載の洗浄用組成物。

【請求項 9】

更に、ピロクトオラミンを含有する、請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の洗浄用組成物。

【請求項 10】

前記洗浄用組成物がシャンプーまたは石鹸である、請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項に記載の洗浄用組成物。

【請求項 11】

前記組成物全量に対し、

(A) ミコナゾール硝酸塩を 0 . 1 ~ 1 . 0 質量 %、

(B) ピロ亜硫酸ナトリウム、トコフェロール、天然ビタミン E、緑茶乾留エキスおよび茶エキスからなる群より選ばれる少なくとも 1 種の抗酸化剤を 0 . 1 ~ 2 . 0 質量 %、ならびに

(C) N - アシルグルタミン酸塩、N - アシルメチルアラニン塩、N - アシルメチルタウ

リン塩、N - アシルサルコシン塩およびN - アシルアスパラギン酸塩からなる群より選ばれる少なくとも1種のアニオン界面活性剤、および/またはアミノ酢酸ベタイン型両性界面活性剤、および/またはイミダゾリン型両性界面活性剤の両性界面活性剤を10～30質量%、

を含有する、請求項1～10のいずれか1項に記載の洗浄用組成物。

【請求項12】

前記アニオン界面活性剤が、ヤシ油脂肪酸アシルグルタミン酸ナトリウム、ラウロイルメチル- -アラニンナトリウム、ヤシ油脂肪酸メチルアラニンナトリウム、ヤシ油脂肪酸メチルタウリンナトリウム、ラウロイルメチルタウリンナトリウム、ラウロイルサルコシンナトリウム、ヤシ油脂肪酸サルコシンナトリウムおよびラウロイルアスパラギン酸ナトリウムからなる群より選ばれる少なくとも1種であり、かつ、

前記両性界面活性剤が、ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン、ヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタインおよび2 - アルキル - N - カルボキシメチル - N - ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタインからなる群より選ばれる少なくとも1種である、請求項11に記載の洗浄用組成物。

【請求項13】

(A) ミコナゾール硝酸塩を0.1～1.0質量%、

(B) 緑茶乾留エキスを0.1～2.0質量%、

(C) ラウロイルメチル- -アラニンナトリウムおよび/またはヤシ油脂肪酸メチルタウリンナトリウムを5～15質量%

(D) 任意で2 - アルキル - N - カルボキシメチル - N - ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタインおよび/またはヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタインを1～10質量%、プロピレングリコールを1.0～10質量%、ならびに

pH調整剤、防腐剤および水を

含むシャンプーまたは石けんである、洗浄用組成物。

【請求項14】

(A) ミコナゾールおよび/またはその塩と、

(B) 緑茶乾留エキスト、

(C) 界面活性剤とを含有する体臭抑制剤。

【請求項15】

(A) ミコナゾール硝酸塩を0.1～1.0質量%、

(B) 緑茶乾留エキスを0.1～2.0質量%、

(C) ラウロイルメチル- -アラニンナトリウムおよび/またはヤシ油脂肪酸メチルタウリンナトリウムを5～15質量%

(D) 任意で2 - アルキル - N - カルボキシメチル - N - ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタインおよび/またはヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタインを1～10質量%、プロピレングリコールを1.0～10質量%、ならびに

pH調整剤、防腐剤および水を

含むシャンプーまたは石けんである、体臭抑制用組成物。

【請求項16】

(A) ミコナゾールおよび/またはその塩、ならびに(C)界面活性剤を含有する洗浄用組成物に配合するための、

(B) ピロ亜硫酸ナトリウム、トコフェロール、緑茶乾留エキスおよび茶エキスからなる群より選ばれる少なくとも1種の抗酸化剤からなる前記(A)ミコナゾールおよび/またはその塩の安定化剤。

【請求項17】

(A) ミコナゾールおよび/またはその塩、

(B) ピロ亜硫酸ナトリウム、トコフェロール、天然ビタミンE、緑茶乾留エキスおよび茶エキスからなる群より選ばれる少なくとも1種の抗酸化剤、ならびに

(C) 界面活性剤

を配合してなる、医薬品、医薬部外品または化粧品用の洗浄用組成物。